2027年度「情報通信の安心安全な利用のための標語」募集

「情報通信における安心安全推進協議会」では、
総務省、文部科学省、警察庁、法務省後援のもと、
各地域の総合通信局・総合通信事務所、教育委員会等の皆様と連携し、
子どもたちの「情報モラル」や「ICTリテラシー」を高めるための取り組みとして、
毎年「標語」の募集を行っています。

募集期間
2026年12月1日㊋～2027年2月28日㊐

詳細は下記アドレスもしくは二次元コードから
ご確認ください
https://www.fmmc.or.jp/hyogo/

問い合わせ先
〒105-0001　東京都港区虎ノ門二丁目4 番1 号　虎ノ門ピアザビル4 階
一般財団法人マルチメディア振興センター内　情報通信における安心安全推進協議会事務局
TEL:03-6704-5553

e-ネットキャラバン

■入賞標語は「e-ネットキャラバン講座」内でご紹介します
e-ネットキャラバンは「安心・安全なICT（インターネット）利活用」に必要な気づきを広めるための啓発講座です。小学3年生から高校3年生ならびにその保護者・教職員を対象に全国で年間約2,500 回開催されています。
【お問い合せ】一般財団法人マルチメディア振興センター　e-ネットキャラバン事務局
TEL：03-6704-5553　Mail：e-netcaravan@fmmc.or.jp

学校の取り組み紹介

情報通信の安心安全な利用のための標語

2026年度の学校部門受賞校で、当活動に賛同いただいた学校の取り組みを紹介します。





後援
総務省 Ministry of Internal Affairs and Communications
文部科学省
警察庁 National Police Agency
法務省 MINISTRY OF JUSTICE

北海道旭川東高等学校（北海道）　標語作成者：小笠原 陽大さん

スマホより　前と未来を　見て歩こう

★◆● 総務大臣賞 ●◆★



◆ 「使う」だけじゃない、これからの情報教育

本校では、学校全体で情報モラルに加え、データの扱いや著作権、情報の真偽を見極めるメディアリテラシーなど、情報教育にも大きく力を入れています。情報モラルに関する内容について、授業やホームルームでは、SNSの実例をもとに適切な利用やトラブル防止をめざしているほか、1人1台端末や生成AIを活用した探究学習にも取り組み、生徒が「活用と規律」を考える姿勢を重視しています。トラブル発生時は組織で対応し、教員研修では生成AIや著作権などICT課題にも対応しながら、情報を正しく理解し判断する力を育てています。

● 前を向いて歩いてほしいという生徒の思い

生徒たちが情報モラルやネット社会のルールについて考えるきっかけになればと考え、応募しました。毎年、標語等のコンテストに応募していましたが探す中で偶然、本協議会の募集を知ったことが応募のきっかけです。受賞作品には、歩きスマホや画面ばかりを見る人が多い現状を受け、スマホから目を離して前を向き、多様な景色や体験を通して明るい人生を送ってほしいという思いが込められています。作者の生徒は生徒会長として活躍しており、受賞は学校全体の励みにもなりました。

★ 123年の伝統を力に、次の時代を切り拓く

本校は、明治36年の開校以来、123年の歴史を重ねてきた北海道の伝統校です。「シマレ ガンバレ」という学校標語のもと、どんなことにも妥協せず、ベストを尽くす精神と姿勢を大切にしてきました。多くの卒業生が国内外で活躍する中、その伝統を受け継ぎながら、変化する社会に対応した教育にも力を入れています。SNSなどを活用した情報発信を進めるとともに、情報があふれる時代だからこそ、必要な情報を自ら見極め、深く考え、主体的に判断する力を育んでいきます。

北海道帯広工業高等学校（北海道）

火の用心　コメント1本　火事のもと

★◆● 北海道総合通信局長 ●◆★



◆ 60年以上の歴史と技術教育で未来をつくる

本校は、十勝で60年以上の歴史を持つ工業高校であり、「テクノロジーで未来をつくる人づくり」を合言葉に、最先端の学びと地域への技術還元を大切にしています。半導体やBIM（建築情報を立体的に扱うデジタル設計技術）など先端技術を学ぶ教育や、地域イベントでの技術発信にも力を入れる一方、1人1台端末を活用した学習環境を整備し、生成AIの適正利用についても指導しています。教職員や保護者と連携しながら情報モラルの向上とトラブルの未然防止に努め、生徒がデジタル社会を安心して歩めるよう、最新技術への理解と責任ある行動力を育む教育に学校全体で取り組んでいます。

● ネットの危険を、言葉にして考えてみる

北海道教育委員会からの通知をきっかけに、本校で進めている情報モラル教育にもつながると考え、本標語に応募しました。ネットやSNSをめぐるトラブルが増える中、生徒たちに正しい知識を身につけてもらい、トラブル防止につなげたいという思いから、HRで事前学習を行った上で全校生徒が標語づくりに取り組みました。選考にあたっては、生徒の作品を担任が集約し、各学年で代表作品を選出した後、学年主任らによる協議を経て応募作品を決定しました。生徒たちにとっても、情報モラルやSNSの利用について改めて考える貴重な機会となりました。

★ 「炎上」と「火の用心」をひとつの言葉に

今回の受賞作品は、SNSで起こる「炎上」と昔からの「火の用心」を掛け合わせたものです。ネット上での発言や行動にも注意が必要だということを、誰にでも分かりやすく伝え、印象に残る表現にしたいという思いが込められています。受賞作品を作成した生徒は、部活動と学業の両方に真面目に取り組む生徒であり、受賞の知らせには担任をはじめ1学年全体から喜びの声が上がりました。作品はポスターとして校内に掲示され、生徒が情報モラルについて考えるきっかけにもなっています。技術を学ぶ工業高校だからこそ、情報発信の責任を見つめ直す機会にもなりました。

岩沼市立岩沼西小学校（宮城県）　標語作成者：伊深 蒼哉さん

顔見えず　だからこそもつ　優しさを

★◆● 東北総合通信局長賞 ●◆★

◆ 標語づくりを通して情報モラルを考える

本校はJAET（一般社団法人日本教育工学協会）認定の「学校情報化優良校」であり、児童1人1台の端末やデジタル教材を日常的に活用しています。あわせて計画的な情報モラル教育を実施しており、公式HPやSNSの適切な運用を通じて、児童・保護者双方の情報モラル意識や情報活用能力の向上を図っています。そうした情報教育の一環として、標語づくりを5年生の冬休みの宿題に採用し、児童が情報モラルについて考える機会と捉え、今回の標語に応募しました。

● 友達の作品から学ぶ情報モラル

今回、児童たちが一生懸命に取り組んでくれた標語には、普段の使い方への反省やトラブル防止の工夫が込められており、自分のネットとの付き合い方を楽しく振り返る良い機会となりました。作成時には授業支援システムを使い、みんなの作品をタブレット上で共有しました。休み明けにはお互いの標語を読み合う時間をつくるなど、ICTを活用した交流も行いました。友達が作った言葉に触れ合うことで、児童たちも楽しみながらネットモラルへの意識を深めることができました。



★ 日頃の学びが実った受賞作品

今回受賞した作品には、子どもたちが日常的にデジタル機器やインターネットに触れる中で培った感覚や気づきが反映されています。ネット上での言葉遣いやその影響力を身近に感じているからこそ、単なる形式的な標語にとどまらない、実感のこもった作品につながったのだと思っています。今後は行政等と連携した情報モラル指導を継続し、保護者向けの短時間動画をはじめ、子どもたちや保護者が学びやすい教材も活用しながら、安心して情報社会と関わる力を育んでいきたいと考えています。

江戸川区立第四葛西小学校（東京都）

後悔は　公開したあと　やってくる

★◆● 関東総合通信局長賞 ●◆★



◆ 日頃の学びから考える情報モラル

本校では、情報モラルやネットリテラシーの定着をめざし、児童がネットやSNSの正しい使い方や注意点を自ら考えられるよう工夫して指導しています。「GIGAワークブック」を活用した情報モラル学習に加え、情報委員会の児童が低学年児童へ端末の使い方を教える活動や、家庭での利用ルールについて親子で考える取組なども行っています。また、学校での学びや活動の様子を積極的に発信し、家庭や地域とつながる学校づくりにも力を入れています。一人ひとりが「自分ならどうするか」を自分事として捉え、主体的に判断できる力を育むことを大切にしながら、今回の標語づくりに取り組みました。

● 話し合って選ぶ、みんなの思いが詰まる作品

今回は、実際にSNSなどの個人利用が増え、トラブルが起きやすくなる4～6年生を対象としました。選考は授業内で各児童が個人制作した標語をもとに行いました。まずクラスごとに作品を読み合い、「使い方に気を付けようと思える標語」を話し合いながら選出し、そこから学年代表として4･5･6年生から各1作品、計3作品を出品しました。取り組みの中で児童は、自身のネットの使い方を振り返りながら、自分事として受け止め、真剣に標語づくりに取り組む姿が印象的でした。

★ 受賞作品をみんなで共有、学びを次の一歩へ

今回の受賞を受け、全校朝会で報告した際には全校児童で温かく祝福し、受賞作品を作成した子も、学校代表として名誉ある賞をいただけたことを大変喜んでいました。いただいた記念ポスターは校内各所に掲示し、学びを共有しています。また、情報委員会の児童による下級生への指導など、学びを広げる活動にもつなげています。教える立場に立つことで、自らの端末の使い方や情報モラルについて改めて振り返る機会にもなっています。今後もこうした取り組みを大切にしながら、児童が情報社会の一員として自分で考え、判断できる力を育んでいきます。

掛川特別支援学校御前崎分校（静岡県）

ちょっと待て その情報 ホントかな？

★◆● 東海総合通信局長賞 ●◆★

◆ 安全な発信力を養う本校の情報モラル指導



本校では、携帯マナー講座や法・人権教育、教材・動画を活用し、ネットの正しい利用や情報モラルを継続的に指導しています。また、卒業後の社会生活や就労を見据え、SNSやインターネットを安全に活用し、自分の考えを適切に発信するとともに、相手の思いを理解しながら行動できる力を育むことも大切にしています。こうした中で、生徒たちは言葉の使い方や文章表現によって誤解を招いてしまう場面もあるため、自ら情報モラルについて考え、自分の言葉で発信する機会として標語づくりに取り組んでいます。

● 受賞をきっかけに広がる生徒の発信と学び

標語づくりは1年間の学びのまとめとして、Googleアンケートを活用して各学級から作品を募集し、キーボード入力を取り入れることで、手書きが苦手な生徒も参加しやすくしました。今回の受賞は、生徒たちにとって大きな励みとなり、自分の考えを発信することへの自信にもつながりました。また、学校での活動や生徒が製作した製品、農作物などの成果物をWebサイトで発信しているほか、AIを活用したポスター制作やSNSでのPRも取り入れながら、情報リテラシーの向上と地域との連携に取り組んでいます。

★ 対話とICT活用で育む「生徒の伝える力」

本校では、標語づくりをはじめとした身近な取り組みを通して、お互いを思いやり、信頼し合える関係を育んでいます。また、ZoomなどのWEB会議ツールを活用して遠くの会場と学校をつないだり、集団活動に参加しにくい生徒の個別支援に取り入れたりするなど、ICTを活用した学びにも力を入れています。さらに、販売活動や学校生活の様子を発信する中で、地域とのつながりも大切にしています。こうした活動を継続し、生徒たちが落ち着いて対話し、自分の考えをしっかり伝えられるよう取り組んでいきます。

富山県立砺波高等学校（富山県）

その言葉　「バズる」「燃える」は　紙一重

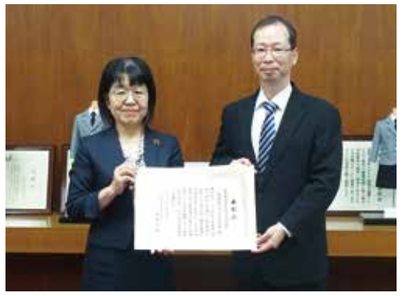
★◆● 北陸総合通信局長賞 ●◆★

◆ ICTモデル校として自ら判断する力を育成

本校では富山県のICTモデル校として、Google for Educationをいち早く学校に取り入れ、生徒個人が主体的に活用できる環境を整えてきました。過度なルールで厳しく縛るのではなく、独自のガイドライン策定や研修、公式Instagramの運用などを通して、生徒自身が情報モラルやプライバシーについて自発的に考え、正しく判断する力を育てています。こうした日々の実践を積み重ね、AIやICTを適切に活用し、自ら考えて行動できる人材の育成をめざしています。

● 10年の歩みとともに生徒同士で学びを深める

本校では10年以上にわたり、本標語への参加を継続しています。今回の取り組みでは情報科が中心となり、2年生を対象として制作活動を行いました。代表作品を選出するにあたっては、まず全4クラスから選ばれた計12作品を揃え、生徒同士による投票を通じて3作品を決定しました。生徒たちにとって、この選考作業も情報モラルやマナーについて改めて立ち止まって考える貴重な機会となりました。日頃の学びを振り返りながら意見を交わすことで、情報との向き合い方を見つめ直し、本活動の意義を再認識する機会にもなっています。



★ ルールに縛られず育む情報モラル意識

「ICTやAIは実際に使い、失敗から学びを得るもの」という考えのもと、生徒の自主性を尊重したきめ細やかな指導を行っています。厳格なルールで縛るのではなく、生徒自身が道具に責任を持ち、自ら使い方の技術やモラルを学ぶ環境づくりを推進してきました。また、校内では独自のAIガイドラインを整備し、生成AIを適切に活用しながら学ぶ環境づくりにも取り組んでいます。今後もこの教育方針にもとづき、生徒同士が自由に議論し、情報モラルについて立ち止まって考える貴重な機会を守りながら、失敗を糧にして将来の社会で責任ある行動をとれる人材の育成をめざしていきます。

大阪府豊中市立第四中学校（大阪府）　標語作成者：安原 千尋さん

立ち止まれ　"正義のつもり"は　赤信号

★◆● 近畿総合通信局長賞 ●◆★

◆ 生徒が自ら考え行動する情報モラルへの取り組み

本校では1人1台タブレットの活用が進む中、SNSやネットのトラブル防止と適切な利用態度の育成に力を入れています。こうした現状を踏まえ、生徒が情報モラルについて主体的に考える機会として標語に応募しました。標語づくりを通して、学級活動の時間にも適切な使い方やモラルについて改めて考えることができました。また、毎年実施している外部講師によるSNS講演会や、生徒会による日常的な標語やスローガンの募集などを通して、学校全体で情報モラルの向上を図っています。

● 全校で挑んだ標語づくりと受賞がもたらした変化

今回の応募では、全校生徒がクラス単位で標語づくりに取り組んだ結果、見事受賞を果たすことができ、受賞作を作成した本人や保護者からも喜びの声が上がりました。そして、この受賞を機に、生徒会でも自発的な標語募集がより活発になりました。なお、今回受賞を果たした標語は、生徒たちの身近で起こりうる問題に対し、率直なニュアンスが直感的に伝わる点が高く評価され、生徒や教員の共感を呼ぶ印象的な作品となりました。



★ 日常に潜む問題に挑む本校の情報モラル教育

この標語がテーマとしたように、画像や動画の共有は生徒たちの日常に溶け込んでおり、使い方によっては思わぬトラブルや不適切動画の拡散につながる可能性もあります。生徒を取り巻く状況は一人ひとり異なるため、全体への啓発に加えて個別指導や相談対応も大切にしており、家庭との連携も重要だと感じています。今後も生徒自身が「自分ごと」として考える取り組みを継続し、変化する情報社会に対応できる力を育んでいきたいと考えています。

呉市立和庄小学校（広島県）

その情報　嘘か真（まこと）か　見きわめろ

★◆● 中国総合通信局長賞 ●◆★

◆ 学校と家庭で育む情報モラルとメディアリテラシー



本校では、1年生から1人1台端末を活用し、情報機器の適切な使い方について段階的に指導しています。さらに、NIE（Newspaper in Education）の指定校として新聞を活用した学習に取り組み、情報を正しく受け取り、見極める力を育んでいます。また、「人を大事にする」学校教育目標のもと、保護者向け説明会などを通して学校と家庭が連携しながら、児童が安全かつ責任をもって情報を活用できる環境づくりを進めています。そうした学びを社会につなげる機会として、今回の標語づくりに取り組みました。

● 標語応募をきっかけに高まる学びへの意欲

児童が一生懸命に取り組んでくれた標語には、普段の使い方への反省やトラブル防止の工夫が込められており、自分のネットとの付き合い方を楽しく振り返る良い機会となりました。作文よりも取り組みやすい標語という形式を活かし、児童は前向きに制作に取り組みました。作成した標語はタブレットで共有し、友達同士で意見を交わしながら推敲を重ねました。今回の受賞を受けて、クラス全員を校長室に招いて表彰式を行ったほか、ポスターや地域紙の記事を校内に掲示し、学校全体で情報モラルへの意識を高める機会となりました。本校では、すべての児童が安全・安心に学校生活を送り、確かな行動につながることを期待しています。

★ 一人一人の「伝える力」と主体性を育む

今後、情報教育を推進する中で、単に端末を使うことを目的とするのではなく、「人を大事にする」という学校教育目標のもと、対面での対話や手書きによる学びなど、人との関わりを大切にした教育との両立を図っていきます。一方で、音声入力などのICTは、書くことが苦手な児童や支援を必要とする児童の表現を支える有効な手段でもあります。これからもデジタルの良さを活かしながら、児童一人一人が自分の言葉で考え、相手を思いやりながら発信できる力と主体性を育んでいきます。

新居浜東高等学校（愛媛県）　標語作成者：黒河 侑生さん

うそかもな　少しの違和感　大切に

★◆● 四国総合通信局長賞 ●◆★



◆ 情報モラルを自分ごとに。『授業の中で挑む』標語づくり

本校では、安全で適切な情報通信の利用に向け、情報モラル教育を教育活動全体で推進しています。その一環として、毎年1年生全員を対象に、1年間の情報モラル学習の締めくくりとして標語制作に取り組んでいます。授業内で短時間で自ら考え、情報との向き合い方を見つめ直す学習として定着しており、その中から情報科教員が心に残った作品を選び、FMMC標語へ応募しています。この取り組みは、日頃の学びを発信する機会として、生徒の意識向上にもつながっています。

● 言葉にすることで深まる情報モラルの意識

今回、四国総合通信局長賞を受賞した生徒の標語「うそかもな 少しの違和感 大切に」について本人に思いを聞いたところ、「日頃からインターネットの情報を見るときは、正しいかどうか一歩立ち止まって判断することが大切だと思って書いた」と話していました。このように制作を通して自らの考えを言語化するプロセスこそが、生徒自身にとって日常的な情報との向き合い方をあらためて捉え直す、大変良い機会になっていると感じています。

★ 多様な体験や情報発信を通して育む生徒の表現力と発信力

本校では情報モラル教育にとどまらず、愛媛県内初となる「健康スポーツ科」の設置をはじめとするスポーツ教育にも力を注いでいます。また、ダンス部をはじめとする部活動での動画発信がYouTubeで1万回以上再生されるなど、地域や外部に向けた情報発信・表現活動も活発に行われています。
今回のような標語制作をはじめとする取り組みを通じ、生徒が社会や情報と適切に関わりながら成長できるよう、今後も実りある指導と適切な環境整備に努めてまいります。

日本文理大学附属高等学校（大分県）　標語作成者：篠田 美咲さん

その情報　本当に合ってる？　考えて

★◆● 九州総合通信局長賞 ●◆★



◆ つくる力と守る力を育てる情報モラル教育

本校では1人1台端末を活用した教育活動を通して創造力や課題解決力を育んでいます。また、授業や外部講師による講演、生徒会と連携した啓発動画の制作などを通して、情報の安全な扱い方やモラルについて継続的に学ぶ機会を設けています。さらに、教員研修やICT支援員との連携を通して知識向上を図るとともに、保護者との情報共有にも取り組みながら、多角的な情報モラル教育を推進しています。

● 2020年から続く標語づくりで学ぶ情報モラル

生徒に情報モラルを主体的に考えさせる機会として、2020年から全校生徒を対象に毎年標語づくりに取り組んでいます。授業や課題の中で作品を制作し、全校から集まった標語の中から情報科教員が応募作品を選んでいます。今回受賞した作品は、社会問題となっている誤情報やデマへの注意喚起を分かりやすく表現した作品として選ばれました。
また、受賞後は校内へのポスター掲示を通して生徒への啓発にも活用しており、こうした活動を通して、生徒一人ひとりの情報モラル意識を育んでいきたいと考えています。

★ ひと言に込める、情報モラルへの気づき

標語は作文やポスター制作に比べてハードルが低く、生徒にとって取り組みやすいツールだと感じています。手軽でありながらも、言葉を練る過程で情報モラルやリテラシーについて深く考える良さがあり、生徒たちのモラル意識の向上を図る上でとても有効です。また、本校では生徒会による啓発動画の制作や、生徒が主体となって取り組む「NBU-Tube」による動画発信、こども園や小中学校への出前授業、地域イベント参加など、生徒自身が発信者として活躍する機会も大切にしています。こうした身近で実践的な取り組みを通して、生徒の意識向上を図るとともに、地域とのつながりや相互理解の促進につなげています。

沖縄県立中部商業高等学校（沖縄県）　標語作成者：与儀 美優さん

画面越し 言葉のナイフ 気づいてる？

★◆● 沖縄総合通信事務所長賞 ●◆★

◆ 共感を呼んだ受賞作がもたらした全校への刺激

本校では端末の活用や講話を通じ、情報モラルの育成に取り組んでいます。その一環として授業課題で標語作成に取り組んでもらい、チャット上で作品や過去作を共有・閲覧してイメージを膨らませました。応募作である「画面越し 言葉のナイフ 気づいてる？」という作品は、生徒たちの実感に近く、SNSトラブルに悩む気持ちに寄り添う共感性の高い作品ということで選出しました。今回の受賞が学内新聞で紹介された際は、作者の生徒も大変喜び、学校全体でモラルを考える良いきっかけとなりました。

● 学び合いで育む主体的な標語づくりの工夫

標語づくりでは、生徒が自分の考えを表現しやすい環境づくりを大切にしました。制作に悩む生徒もいたため、オンライン上で作品を共有し、クラスメイト同士で閲覧やリアクションを行いながら、互いのアイデアを参考にできるようにしました。また、過去の受賞作品を紹介することで、標語の表現方法や伝え方を学ぶ機会も設けました。仲間の作品に触れることで、生徒たちは「このような表現もできるのだ」と具体的なイメージを持ち、意欲的に制作へ取り組んでくれました。



★ 家庭や地域とも連携して広げる情報モラルの輪

本校では、情報モラル教育をさらに広げるため、学年や学科を越えた取り組みを進めています。保護者向けには、PTA総会の際に通信事業者の担当者を招き、スマートフォン利用マナー講座を実施しました。また、スポーツ科でも1年次の「情報」の授業を通じて、情報モラルについて学んでいます。
今後も学内新聞への掲載やポスター掲示などを通じて啓発活動を継続し、生徒が達成感や自信を得られる機会を大切にしながら、家庭や地域とも連携した情報モラル教育を推進していきたいと考えています。

協議会会員企業・団体名

- ◎ Apple Japan, Inc.
- ◎ 株式会社インターネットイニシアティブ
- ◎ NTTグループ
- ◎ KDDI株式会社
- ◎ ソフトバンク株式会社
- ◎ 日本電気株式会社
- ◎ 楽天モバイル株式会社

- ◎（一社）安心ネットづくり促進協議会
- ◎（一社）インターネットコンテンツ審査監視機構
- ◎（特非）情報セキュリティ研究所
- ◎（一社）情報通信エンジニアリング協会
- ◎（一社）情報通信設備協会
- ◎（一社）情報通信ネットワーク産業協会
- ◎（一社）セーファーインターネット協会
- ◎（一社）全国携帯電話販売代理店協会
- ◎（一社）テレコムサービス協会
- ◎（一社）電気通信事業者協会
- ◎（一社）日本インターネットプロバイダー協会
- ◎（一社）日本ケーブルテレビ連盟
- ◎（一財）日本データ通信協会
- ◎（一財）マルチメディア振興センター
- ◎（一社）モバイル・コンテンツ・フォーラム